

26PB-am292

価値観の多様性を気づかせるコミュニケーション実習

○高田 公彦¹, 山本 健¹, 富澤 崇², 廣澤 伊織¹, 増田 豊¹, 渡部 一宏¹, 廣原 正宜¹, 山本 美智子¹ (¹昭和薬大, ²城西国際大薬)

【目的】薬剤師は様々な価値観をもった患者とのコミュニケーションが求められる。そこで本学では、模擬患者（以下、SP）の協力のもと、「コミュニケーション実習」を行った。今回の実習を通じて得られたアンケート結果から本実習の必要性和今後の改善点について検討を行った。【方法】本学4年次学生計213名に対し、SP参加型コミュニケーション実習を行った（1回あたり51～55名/約200分）。実習内容は「難解な医療用語の言い換え」や「残薬がある患者の抱える理由」をテーマにSPとのロールプレイを行った。またこれと平行し、グループワークとして「short storyに登場する人物の好感度に対する価値観の多様性」についてのディスカッションを行った。実習終了後、5段階の評定尺度法を用いたアンケート調査を行い、得られた結果について解析を行った。【結果・考察】「本実習は薬剤師になるために必要な実習であると感じた」、「本実習は全体的に満足できるものであった」という必要性・満足度を問う設問に対しては 4.6 ± 0.6 、 4.3 ± 0.6 と概ね高い評価であった。今回行った「価値観の多様性」に対する理解度・新たな気づきの有無に対する設問については高い評価が得られ、それらに相関性がみられた。その理由として、教材に用いた short story が人間の生死にかかわる価値観についての内容であり、活発な議論が出来たためと推察された。また、「本実習前は、他人とのコミュニケーションに対して不安があった」という設問と必要性・満足度を問う設問との間に相関関係は見られなかった。これより、本実習内容が自己のコミュニケーションに対する不安に関係なく満足・理解されたと考えられた。今後は、本調査を基に、用いる教材やテーマ、学生の客観的評価を可能にするツール作成についての検討が必要であると思われた。